

# 2022年度

# 予算・事業計画

2022年度収支予算が、去る2月の組合会において可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。



## 2022年度 予算のポイント

### ◆全国の健康保険組合を取り巻く状況

健康保険組合を取り巻く環境は、医療の高度化や高額薬剤の保険適用などによる医療費の増加を背景に厳しい状況が続いています。2022年は団塊の世代が75歳（後期高齢者）に到達し始めることで健保組合が拠出する後期高齢者支援金が急増する「2022年危機」がいつに到来するなか、コロナ禍の影響による企業業績や報酬水準の低下などもあり、健保財政の悪化は避けられません。このような状況を踏まえ、財政の安定化を図り保険者機能が十分に発揮されるよう、早急な各種財政支援の強化が求められるところです。

健保連発表の2020年度健保組合決算見込の概要によりますと、コロナ禍の影響により保険料収入は減少

## 健康保険料率(9.2%) 介護保険料率(1.7%) は据え置き

### ■一般勘定基礎数値

健康保険料率	9.2% (据え置き)
被保険者	3.677%
会社	5.523%

### ■平均加入者数

従業員	被保険者	21,724人	(前年比 +71人)
	被扶養者	23,657人	(前年比 +87人)
特退(OB)	被保険者	882人	(前年比 ▲213人)
	被扶養者	789人	(前年比 ▲191人)

### ■平均標準報酬月額

従業員	426,573円	(前年比 +2,244円)
特退(OB)	407,229円	(前年比 +29,035円)

※特例退職被保険者(特退)の標準報酬月額は全員一律です(3月まで380,000円、4月以降410,000円)。

したものの、感染拡大下における受診控え等により保険給付費が大きく減少し、全国の健保組合の経常収支差引額は2,952億円の黒字となりました。赤字組合は全体の3分の1にあたる458組合で、前年度と同程度でした。義務的経費に占める拠出金割合は48.1%と、対前年度比2.1%増でした。

### ◆シャープ健康保険組合の予算概要

当組合の2022年度予算は、コロナ禍において先行き不透明な状況にあること、また、団塊の世代が後期高齢者へ移行することによる国への納付金増加に備え、現行の健康保険料率「9.2%」を据え置き、積立金取り崩しで収支バランスを取った予算総額160億4,500万円の予算としました。

## 健康保険

### 予算総額

160億4,500万円

#### 【全体】

##### ■一般勘定収支(特退含む)

収入	
科目	予算額(百万円)
保険料収入	13,714
事業収入・他	331
繰入金	2,000
合計	16,045

支出	
科目	予算額(百万円)
保険給付費	7,405
納付金	6,399
保健事業費・他	1,026
予備費	1,215
合計	16,045

単年度収支差引額 ▲785

##### ※内、特退(OB)収支

収入	
科目	予算額(百万円)
保険料収入	397
事業収入・他	6
繰入金	-
合計	403

支出	
科目	予算額(百万円)
保険給付費	649
納付金	-
保健事業費・他	25
予備費	-
合計	674

単年度収支差引額 ▲271

## 介護保険

### 予算総額

21億4,200万円

#### ■介護勘定基礎数値

介護保険料率	1.7% (据え置き)
被保険者	0.85%
会社	0.85%

#### ■介護勘定収支

収入	
科目	予算額(百万円)
介護保険収入	2,042
繰入金	100
合計	2,142

支出	
科目	予算額(百万円)
介護納付金	1,974
介護保険料還付金	0
予備費	168
合計	2,142

なお、単年度収支差引額は▲7億8,500万円(赤字)となります。

保健事業については、感染予防を徹底したうえで、2018年度からスタートした「第2期データヘルス計画」をベースに、被保険者(従業員)・被扶養者(ご家族)のみなさまの健康増進・疾病予防事業等を積極的に展開してまいります。

とくに、会社の健康経営の考えのもと実施する「けんこうシャープ23」施策と連動した取り組み(コラボヘルス)を積極的に推進するとともに、喫煙対策や健康管理室のない販社従業員と被扶養者のみなさまの特定健診の受診率向上・特定保健指導等を強化する予算編成としました。

### ◆2021年度 健康保険更正予算

2021年度の予算について、三原保養所の跡地を売却する運びとなり、これに係る諸経費を計上する科目を設定する必要が生じたことから、更正予算を編成し近畿厚生局へ届出をしました。

なお、予算額は予備費から流用したため、予算総額に変更はありません。

